

201225045A(別添あり)

厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

平成24年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 宮川 昭二

平成25(2013)年 3月

平成24年度

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

研究組織

研究代表者

宮川 昭二 国立感染症研究所 国際協力室長
(平成25年1月から平成25年3月まで)
富澤 一郎 国立感染症研究所 企画調整主幹
(平成24年4月から平成24年12月まで)

研究分担者

竹田 誠 国立感染症研究所 ウイルス第3部長
宮川 昭二 国立感染症研究所 国際協力室長

研究協力者(PO)

内山 竹彦 常磐大学人間学部健康栄養学教授
神田 忠仁 (独)理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター
業務展開チーム チームリーダー
森 亨 桔核予防会結核研究所 名誉所長
山口 一成 熊本大学発生医学研究所幹細胞誘導分野

(所属・役職は、研究班参加時のもの。)

研究分担者、研究協力者は、五十音順・敬称略)

目 次

I. 総括研究報告

新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究……………1

宮川 昭二 国立感染症研究所国際協力室長

【資料】

1. 平成24年度新規採択課題(1年目研究課題)
2. 平成24年度継続課題(2年目研究課題)
3. 平成24年度終了課題(3年目研究課題)
4. インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 PO 意見一覧表
5. 評価支援システム
6. 感染症に関する国際情報収集(宮川先生)
7. 感染症に関する国際情報収集(竹田先生)
8. 感染症に関する国際情報収集(大西先生)
9. 厚生労働科学公募研究事業の概要等(抜粋)

II. 分担研究報告

研究評価支援システムの開発25

宮川 昭二 国立感染症研究所 国際協力室長

新興・再興感染症研究の企画及び評価に関する研究

(分担報告).....32

宮川 昭二 国立感染症研究所 国際協力室長

新興・再興感染症研究事業の企画及び評価に関する研究

(分担報告).....34

竹田 誠 国立感染症研究所ウイルス第3部長

【別添】

平成25年度厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業研究成果の概要

厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
総括研究報告書

平成24年度 新興・再興感染症研究事業の総合的推進に関する研究

研究代表者 宮川 昭二 国立感染症研究所 国際協力室長

研究要旨

厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業を総合的に適切かつ円滑で効果的に実施することは、厚生労働省の感染症対策の総合的推進において必須である。本研究は、感染症研究等の専門家による同事業で実施する研究課題についての研究の企画と評価を行うとともに、情報提供や調整を行う。感染症研究の企画・評価に必要な情報収集・調査を実施し、円滑かつ適切な研究評価を行うための研究情報の共有方法について研究し、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究の総合的推進に資するために本研究を行う。

研究分担者

竹田 誠 (国立感染症研究所)

A. 研究目的

新興・再興感染症に対する迅速かつ適切な対応は、国民の健康を守る上で重要な施策の一つである。しかし、その対象となる感染症は多岐にわたっており、希少な感染症や今後の発生も想定される新たな感染症もある。このため、今後とも適宜適切な対応を行っていくためには、日頃から対応の基礎となる最新の知見を幅広く集積することが重要で、その研究体制を確保し、対応の決定に科学的根拠を提供するための研究の推進を図っておくことが必要である。

厚生労働省においては厚生労働科学研究費補助金・新型インフルエンザ等新

興・再興感染症研究事業の企画・評価の支援及びこれらを通じて評価者、研究者等への支援方法等についての検討を行い、その成果を厚生労働省(具体的には、健康局結核感染症課)へ提供することにより、我が国における新興・再興感染症対策の適切な実施に資する研究の推進に寄与することを目的としている。

本研究課題では、新興・再興感染症研究に関する情報の収集、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価の支援及びこれらを通じて評価者、研究者等への支援方法等についての検討を行い、その成果を厚生労働省(具体的には、健康局結核感染症課)へ提供することにより、我が国における新興・再興感染症対策の適切な実施に資する研究の推進に寄与することを目的としている。

B. 研究方法

1 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

平成24年度に新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業により実施された公募研究課題(一般公募型及び若手育成型)に関して、厚生労働本省が行う研究の企画・評価等の支援として、以下1)～3)を行った。

- 1) 感染症研究の専門家による評価組織(以下「評価委員会」という。)との連絡、情報共有等の実施
- 2) 研究協力者(プログラムオフィサー)等による研究班会議への出席及び研究の進捗状況の把握、ピアレビューの実施と評価委員、厚生労働省との情報共有
- 3) 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において実施されている研究課題を対象とした研究発表会の実施

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

国内外の会議への参加、文献収集等により、新興・再興感染症研究の企画・評価及び研究の実施に資する関連情報の収集と関係者との情報共有

3. 評価支援システムの開発

中間・事後評価委員会委員が、成果発表会、中間・事後評価委員会前に予備評価を行うシステムを開発した。

(倫理面への配慮)

本研究課題においては、患者等の診療情報や試料、実験動物を用いること

はなく、疫学研究に関する指針、臨床研究に関する指針等に関して特に配慮すべき内容は含まないが、研究者の個人情報や研究課題内容に関する情報等を収集することから、その取扱いについては研究者等に不利益を与えないよう十分に配慮する。

C. 研究結果

1. 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価等の支援

- (1)平成24年度実施公募課題(※1)
(中間・事後評価)

※1 平成24年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の公募研究課題

1年目研究課題	19課題	【資料 1】
2年目研究課題	26課題	【資料 2】
3年目研究課題	24課題	【資料 3】

- 1) 研究の進捗状況の把握及びピアレビュー

平成24年度に新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において研究を行う公募研究課題の研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、本研究課題研究代表者及び3名のプログラムオフィサーが分担して出席可能な研究班会議に出席した(※2)。

研究班会議に出席した研究課題は、平成24年度に実施された公募課題研究69課題のうち29課題である。

※2 研究班会議出席状況等 【資料 4】

研究班会議の状況についてはレポートを作成の上、研究評価の参考資料として評価委員、厚生労働省との情報共有を行った。レポートは、中間・事後評価を実施する時期の1ヶ月前までに情報共有するとともに、その後、評価委員会までに開催された研究班会議についても適宜情報共有を行っている。

2) 研究成果の取りまとめ

全公募研究課題の研究代表者に対して成果概要の作成を依頼し、その取りまとめを行った。

この成果概要は、評価委員による評価資料とするとともに、各研究課題の研究代表者の了承を得た上で「研究成果の概要(※3)」として冊子を作成し、研究及び対策の実施に当たっての参考資料として新興・再興感染症研究にかかわる評価者、研究者及び厚生労働省等の関係者に配布するとともに、セキュリティに配慮した上で、後述の研究発表会の状況と併せてweb上での閲覧を試行する。

※3 研究成果の概要 【別添】

3) 研究発表会の実施

2年目研究課題及び3年目研究課題を対象に、平成24年1月28日に研究発表会を実施した。

研究発表会は、評価委員によるヒアリング等の場とするとともに、他研究課題の成果を共有する機会として

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の全研究課題の研究代表者及び研究分担者にも参加を案内した。また、成果発表会での発表内容について関係者との情報共有を推進するため、発表者に了承を得て音声記録を行い、2)の研究成果資料とともにweb上で関係者における共有を行った(【資料5】)。

(2) 平成25年度 新規申請課題 (事前評価)

平成25年度研究課題として申請のあった研究課題について、採択の妥当性、研究規模等に関する評価委員による評価を適切かつ円滑に実施することを支援するため、申請課題の事前評価に関する資料の作成とヒアリング等の実施を支援し、その内容を厚生労働省へ提供した。

なお、ヒアリングについては、評価委員に対して行った評価方法に関する意見聴取等を踏まえて、平成25年2月22日に実施した。

2. 新興・再興感染症研究に関する情報収集

厚生労働省の新型インフルエンザ専門家会議、新型インフルエンザワクチンに関する意見交換会、厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会等の傍聴、第9回日本—台湾感染症シンポジウム(平成24年9月20日—21日、於:台北)、第6回日中韓感染症対策シンポジウム(平成24年11月

20日日、於：東京)など、新興・再興感染症研究の専門家、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において研究を実施する研究者等との意見交換を通じて国内における関連研究に関する情報収集を行った(【資料6】)。

新興・再興感染症研究の中でも特に重要な課題である麻疹に関して、世界の状況調査・情報収集ならびにわが国の状況報告を目的に活動を行った。国内の麻疹の流行状況については、わが国の地方衛生研究所と連携して、患者からの臨床検体の収集ならびに解析を強化し、ウイルス学的検索を実施した。その結果、2011年以降わが国で流行している麻疹ウイルスのほとんどが海外からの流行株であることが明らかになった

(【資料7】)。

これらを通じて、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業において推進すべき課題等の把握を行うとともに、今回の新型インフルエンザの発生を受け、分担研究者がアジアを中心とする開発途上国への対応支援の観点から求められる研究内容等について情報収集を行った。その結果、国内組織による研究の推進はもとより、アジアを中心とした国際的な共同研究の推進及び連携体制の構築の観点からも新型インフルエンザ等新興再興感染症研究事業を活用することの必要性、研究の企画とその課

題設定等についての検討を行うことの重要性を認識した。(【資料8】)

これらの新興・再興感染症研究に関して収集した情報は、厚生労働省における平成25年度の公募研究課題の立案・公募要項(※4)の作成の参考としても活用されることを想定し、適宜、厚生労働省と情報共有を行った。

※4 平成25年度厚生労働科学公募研究事業の概要等(抜粋) 【資料9】

3. 評価支援システムの開発

現在、中間・事後評価委員会委員が、成果発表会、中間・事後評価委員会前に予備評価を書面により行っている。この業務を効率化するため、WEBを用いて評価を行うシステムを開発した。

D. 考察

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の対象となる感染症は、新型インフルエンザを代表とする発生前から事前対応を求められている感染症、ウイルス性出血熱やSARSのように重篤な輸入感染症として認知されている新興感染症、麻疹や結核、インフルエンザのように社会的な問題として認知されている感染症、多剤耐性菌や成人の百日咳等しばしば報道もなされて認知が高まっている感染症、さらには一般国民にはあまり注目されていないと考えられる感染症等、非常に多岐にわたっている。また、

一般的に注目されている感染症に対する研究の推進とその成果の対応への還元が重要であることは言うまでもないが、あまり注目されていないと考えられる感染症であっても、常に基盤的な研究が継続されなければ問題が発生した際の対応が困難であることは明白であり、単に注目の高低のみで研究の意義や重要性を判断することは難しい。

国際共同研究に関しては、インドネシアでは、鳥インフルエンザは非常に機微な問題であり、かつ、外国の調査には警戒心をもっているため、鳥インフルエンザに関する調査をインドネシアで実施するのは非常に困難であることが実感された。双方のメリットを考慮した国際共同研究が求められる。

限られた予算と当該研究分野における研究者のマンパワーを最大限に活用し、これらの期待に応える効率的・効果的な研究を推進するためには、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の企画・評価において、これまで実施されている研究の内容や成果を適切に把握するとともに、研究を取り巻く行政的なニーズ、国際的な研究の状況に基づく企画・評価等を行って効率的に研究を実施することが求められる。また、これらの企画・評価等に基づく研究を適切に実施し、確実な成果が得られるよう研究者を支援することは非常に必要と考えられる。

また、非常に多岐にわたる感染症に関する基礎から応用、自然科学的分野

から社会科学的分野にいたる種々の研究課題を目的に応じて適切に評価するためには、数値的な評価指標のみでは困難であり、ピアレビューも含めた複数の視点から行われることが必要である。

E. 結論

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業の適切かつ円滑な実施を図るため、新興・再興感染症関連研究に関する情報の収集及び当該研究事業において実施される研究の企画・評価及び研究実施の支援を行った。研究発表会の開催やピアレビューなど、評価の充実とともに、疫学的方法論に基づく研究の実施が、研究の質向上に役立つと考えられた。

F. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

平成24年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 採択課題一覧 <中間評価 1年目>

合計19件（一般14件 若手5件）

評価NO	類型	開始	終了	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
1-1	H24-新興一般-001	24	26	木戸 博	徳島大学 疾患酵素学 研究センター(全国共同 利用・共同研究・酸素学 研究拠点)	特任教授	重症のインフルエンザによる肺炎・脳症 の診断・治療に関する研究・新規診断・ 治療に関する提案と検証
1-2	一般-002	24	26	森島 恒雄	岡山大学 大学院医歯 薬学総合研究科	教授	重症のインフルエンザによる肺炎・脳症 の病態解析・診断・治療に関する研究
1-3	一般-003	24	26	大石 和徳	国立感染症研究所 感染症情報センター	センター長	ワクチンにより予防可能な疾患に対する 予防接種の科学的根拠の確立及び対策 の向上に関する研究
1-4	一般-004	24	26	荒川 創一	神戸大学 大学院医学 研究科	特命教授	性感染症に関する特定感染症予防指針 に基づく対策の推進に関する研究
1-5	一般-005	24	26	寺嶋 淳	国立感染症研究所 細菌第一部	室長	病原体解析手法の高度化による効率的 な食品由来感染症探知システムの構築 に関する研究
1-6	一般-006	24	26	吉川 泰弘	千葉科学大学危機管理 学部	副学長・教 授	動物由来感染症に対するリスク管理手 法に関する研究
1-7	一般-007	24	26	澤邊 京子 (H24.4小林 睦生より代 変)	国立感染症研究所 昆虫医科学部	部長	感染症を媒介する節足動物の分布・生 息域の変化、感染リスクの把握に関する 研究
1-8	一般-008	24	26	安藤 秀二	国立感染症研究所 ウイルス第一部	室長	ダニ媒介性細菌感染症の診断・治療体 制構築とその基盤となる技術・情報の体 系化に関する研究
1-9	一般-009	24	26	向井 徹	国立感染症研究所 ハンセン病研究センター 感染制御部	室長	ハンセン病の予防法及び診断・治療法の 開発・普及に関する研究
1-10	一般-010	24	26	柴山 恵吾	国立感染症研究所 細菌第二部	部長	新たな薬剤耐性菌の耐性機構の解明及 び薬剤耐性菌のサーベイランスに関する 研究

評価 NO	類型	開始	終了	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
1-11	一般-011	24	26	加藤 誠也	(公財)結核予防会 結核研究所	副所長	結核の革新的な診断・治療及び対策の 強化に関する研究
1-12	一般-012	24	26	大西 真	国立感染症研究所 細菌第一部	部長	重症の腸管出血性大腸菌感染症の病原 性因子及び診療の標準化に関する研究
1-13	一般-013	24	26	西條 政幸	国立感染症研究所 ウイルス第一部	部長	病原体及び毒素の管理システムおよび 評価に関する総括的な研究
1-14	一般-014	24	26	谷口 清州	国立感染症研究所 感染症情報センター	客員研究 員	自然災害時を含めた感染症サーベイラ ンスの強化・向上に関する研究
1-15	若手-015	24	26	田辺 公一	国立感染症研究所 生物活性物質部	主任研究 官	侵襲性真菌症例から分離された原因真 菌の分子疫学解析と疫学データベース 化を用いた院内感染対策の研究
1-16	若手-016	24	26	谷 英樹	国立感染症研究所 ウイルス第一部	主任研究 官	水疱性口内炎ウイルスを用いたアレナウ イルスワクチン感染中和抗体開発に関 する基盤研究
1-17	若手-017	24	26	森田 英嗣	大阪大学微生物病研究 所 感染症国際研究セ ンターウイルス研究グ ループ	特任准教 授	エンベロープウイルス粒子形成の分子基 盤の解明と創薬に向けた研究開発
1-18	若手-018	24	26	上野 孝治	関西医科大学 医学部	助教	HTLV-1感染モデルを用いた抗HTLV-1 薬の探索および作用機序の解析
1-19	若手-019	24	26	水上 拓郎	国立感染症研究所 血液・安全性研究部	室長	抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによる HTLV-1の革新的感染予防モデルの開 発とその有効性の検討

平成24年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 採択課題一覧 <中間評価 2年目>

合計26件(一般22件 若手1件 指定3件)

評価NO	類型	開始	終了	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
2-1	H23-新興-一般-001	23	25	石川 信克	(公財)結核予防会結核研究所	所長	地域における効果的な結核対策の強化に関する研究
2-2	一般-002	23	25	岡田 全司	(独)国立病院機構近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター	臨床研究センター長	海外から輸入される多剤耐性結核に関する研究
2-3	一般-003	23	25	押谷 仁	東北大学 大学院医学系研究科	教授	新型インフルエンザ発生時の公衆衛生対策の再構築に関する研究
2-4	一般-004	23	25	影山 努	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター	室長	感染症の予防、診断・治療又は医療水準の向上のための臨床的研究
2-5	一般-005	23	25	片山 和彦	国立感染症研究所 ウイルス第二部	室長	網羅的ロタウイルス分子疫学基盤構築とワクチン評価
2-6	一般-006	23	25	加藤 康幸	独立行政法人国立国際医療研究センター 国際感染症センター 国際感染症対策室	医長	我が国における一類感染症の患者発生時に備えた診断・治療・予防等の臨床的対応及び積極的疫学調査に関する研究
2-7	一般-007	23	25	倉根 一郎	国立感染症研究所	副所長	バイオテロに使用される可能性のある病原体等の新規検出法と標準化に関する研究
2-8	一般-008	23	25	小林 和夫	国立感染症研究所 免疫部	部長	潜在性抗酸菌感染症の病態機構の解明及び診断・治療・予防に関する研究
2-9	一般-009	23	25	杉山 和良	国立感染症研究所 バイオセーフティ管理室	室長	国際的なバイオリスク管理の基準に基づく病原体取扱いと管理のモデル総合システムの構築と検証に関する研究
2-10	一般-010	23	25	高崎 智彦	国立感染症研究所 ウイルス第一部	室長	我が国への侵入が危惧される蚊媒介性ウイルス感染症に対する総合的 対策の確立に関する研究

評価NO	類型	開始	終了	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
2-11	一般-011	23	25	田代 真人	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス 研究センター	センター長	高病原性の新型インフルエンザ発生に 対する事前準備及び、緊急対応に関する 研究
2-12	一般-012	23	25	多屋 馨子	国立感染症研究所 感染症情報センター	室長	予防接種後副反応サーベイランスの効 果的な運用とその行政的な活用のあり 方に関する研究
2-13	一般-013	23	25	永田 恭介	筑波大学 医学医療系	教授	インフルエンザウイルス複製に関与する 宿主因子とウイルス因子のインター フェースを標的とした新規抗ウイルス薬 探索の基盤研究
2-14	一般-014	23	25	野崎 智義	国立感染症研究所 寄生動物部	部長	顧みられない寄生虫病の効果的監視法 の確立と感染機構の解明に関する研究
2-15	一般-015	23	25	長谷川秀樹	国立感染症研究所 感染病理部	部長	経鼻インフルエンザワクチン等粘膜ワク チンの有効性に関する研究
2-16	一般-016	23	25	浜口 功	国立感染症研究所 血液・安全性研究部	部長	HTLV-1感染症の診断法の標準化と発 症リスクの解明に関する研究
2-17	一般-017	23	25	廣田 良夫	大阪市立大学 大学院 医学研究科公衆衛生学	教授	予防接種に関するワクチンの有効性・安 全性等についての分析疫学研究
2-18	一般-018	23	25	宮崎 義継	国立感染症研究所 生物活性物質部	部長	地域流行型真菌症の疫学調査、診断治 療法の開発に関する研究
2-19	一般-026	23	25	増崎 英明	長崎大学 大学院 医歯 薬学総合研究科展開医 療科学講座(産婦人科)	教授	25年間継続した妊婦のHTLV-I抗体検査 から得られた母子感染予防効果の検証 および高精度スクリーニングシステム開 発
2-20	一般-027	23	25	田中 勇悦	琉球大学 大学院医学 研究科	教授	HTLV-I感染拡大を阻止するワクチンなら びに抗体医薬等の開発基盤の確立
2-21	一般-028	23	25	駒野 淳	大阪府立公衆衛生研究 所 感染症部ウイルス課	主任研究 員	プロウイルスゲノム破壊による革新的H TLV-1関連疾患発症遅延法の開発

評価 NO	類型	開始	終了	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
2-22	一般-029	23	25	長谷川秀樹	国立感染症研究所 感染病理部	部長	HTLV-I感染予防ワクチンの開発に関する研究
2-23	若手-024	23	25	渡利 彰浩	大阪大学 大学院薬学 研究科	助教	パイエル板指向性分子を利用した経口 ワクチンの開発
2-24	指定-019	23	25	富澤 一郎	国立感染症研究所	企画調整 主幹	新興・再興感染症研究事業の総合的推 進に関する研究
2-25	指定-020	23	25	倉根 一郎	国立感染症研究所	副所長	アジアの感染症担当研究機関とのラボラ トリーネットワークの促進と共同研究体 制の強化に関する研究
2-26	指定-021	23	25	田代 真人	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス 研究センター	センター長	細胞培養インフルエンザワクチンの実用 化および流行予測とワクチン株選定に関 する研究

平成24年度新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 採択課題一覧 <事後評価 終了>

合計24件 (一般18件 若手2件 指定4件)

評価NO	類型	開始	終了	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
3-1	H22-新興 一般-001	22	24	信澤 枝里	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス 研究センター	室長	新型インフルエンザH1N1のウイルスの 病原性等の解析に関する研究
3-2	一般-02	22	24	小林 信之	国立国際医療研究セン ター病院呼吸器内科	医長	新型インフルエンザH1N1の病態把握と 重症化の要因の解明に関する研究
3-3	一般-003	22	24	切替 照雄	国立国際医療研究セン ター研究所感染症制御 研究部	部長	新型インフルエンザ等の院内感染制御に 関する研究
3-4	一般-004	22	24	石井 健	独立行政法人医薬基盤 研究所創薬基盤研究部 アジュバント開発プロ ジェクト	プロジェクトリ ダー	インフルエンザワクチンの有効性と安全 性の向上のための理論基盤構築
3-5	一般-005	22	24	小田切孝人	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス 研究センター	室長	地方自治体との連携による新型インフル エンザおよび高病原性インフルエンザ変 異株、薬剤耐性株等の早期検出、検査 診断系の改良および流行把握に関する 研究
3-6	一般-006	22	24	森川 茂	国立感染症研究所獣医 科学部	部長	現在、国内で分離・同定できないウイル ス性出血熱等の診断等の対応方法に関 する研究
3-7	一般-007	22	24	牧野 正彦	国立感染症研究所感染 制御部	部長	結核等抗酸菌感染症における生体防御 及び抗菌制御を介した治療予防法の開 発戦略
3-8	一般-008	22	24	河野 茂	長崎大学大学院医歯薬 学総合研究科感染免疫 学講座	教授	真菌感染症の病態解明に基づく検査・治 療法の確立と国内診断・治療ネットワ ークの構築に関する研究
3-9	一般-009	22	24	苅和 宏明	北海道大学大学院獣医 学研究科	准教授	海外からの侵入が危惧される野生鳥獣 媒介性感染症の疫学、診断・予防法等に 関する研究
3-10	一般-010	22	24	山田 章雄	東京大学大学院農学生 命科学研究科	教授	ワンヘルス理念に基づく動物由来感染症 制御に関する研究
3-11	一般-011	22	24	木村 博一	国立感染症研究所感染 症情報センター第六室	室長	重症呼吸器ウイルス感染症のサーベイ ランス・病態解明及び制御に関する研究
3-12	一般-012	22	24	竹田 誠	国立感染症研究所 ウイルス第三部	部長	早期麻疹排除及び排除状態の維持に関 する研究

評価NO	類型	開始	終了	研究代表者	所属施設	職名	研究課題名
3-13	一般-013	22	24	生方 公子	北里大学北里生命科学研究所病原微生物分子疫学研究室	特任教授	重症型のレンサ球菌・肺炎球菌感染症に対するサーベイランスの構築と病因解析, その診断・治療に関する研究
3-14	一般-014	22	24	河内 正治	独立行政法人国立国際医療研究センター手術部	部長	高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究
3-15	一般-015	22	24	清水 博之	国立感染症研究所 ウイルス第二部	室長	エンテロウイルス感染症制御のための診断・予防治療に関する国際連携研究
3-16	一般-016	22	24	丸井 英二	順天堂大学 医学部	客員教授	情報弱者等への配慮を含めた感染症に対する適切な情報提供・リスクコミュニケーションに関する研究
3-17	一般-017	22	24	鈴木 哲朗	浜松医科大学 医学部 医学科感染症学講座	教授	培養細胞感染系の確立されていない病原体の実験技術の開発と予防診断法に関する研究
3-18	一般-018	22	24	齋藤 昭彦	新潟大学小児科	教授	小児臓器移植前後におけるワクチン接種の安全性と有効性に関する研究
3-19	若手-019	22	24	黒田 誠	国立感染症研究所 病原体ゲノム解析研究センター	センター長	抗菌剤治療により寛解する難治性炎症性腸疾患患者の網羅的細菌叢解析と病因・増悪因子細菌群の解明
3-20	H23-新興-若手-022	23	24	堀田 明豊	国立感染症研究所 獣医科学部	主任研究官	野兔病菌亜種間の病原性相異および動物種間の野兔病感受性の相異に関する研究
3-21	指定-019	22	24	板村 繁之	国立感染症研究所 インフルエンザウイルス研究センター	室長	新型インフルエンザワクチン製造株開発と品質管理及びワクチン使用戦略に関する研究
3-22	指定-020	22	24	三浦 宜彦	埼玉県立大学	学長	インフルエンザワクチン需要予測に関する研究
3-23	指定-021	22	24	庵原 俊昭	国立病院機構三重病院	院長	新しく開発されたHib、肺炎球菌、ロタウイルス、HPV等の各ワクチンの有効性、安全性並びにその投与方法に関する基礎的・臨床的研究
3-24	H23-新興-指定-025	23	24	庵原 俊昭	国立病院機構三重病院	院長	沈降インフルエンザワクチンH5N1を用いたパンデミック対応(異種株連続接種によるパンデミック想定株を含む幅広い交叉免疫性の獲得、1回接種による基礎免疫誘導効果)の研究

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業 PO意見一覧表

※平成25年1月1日より、研究代表者が富澤一郎から宮川昭二に変更になりました。

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
1-1 (一般)	木戸博	徳島大学 疾患 酵素学研究セン ター(全国共同利 用・共同研究・酵 素学研究拠点)	特任教授	重症のインフルエンザによる肺炎・ 脳症の診断・治療に関する研究； 新規診断・治療に関する提案と検 証	2013/12/21	・本研究班はFul alarminsと総称される重症化因子について臨床例やマウスの 実験系で追求しており、脂質代謝、ビルビン酸代謝、貧血、アデノシン三リ ン酸の血中への遊離、ステロイド剤では制御できないIL33誘導細胞障害な ど、小生にもかなり興味深い報告も見受けられた。	
1-2 (一般)	森島恒雄	岡山大学 大学 院医歯薬学総合 研究科	教授	重症のインフルエンザによる肺炎・ 脳症の病態解析・診断・治療に関 する研究	2012/11/21	・重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の病態について、疫学・臨床像、病 態解析、病理、免疫学に渡り、研究計画に従って、幅広く研究が進められて いる。今後、予定されている、治療法の確立、診療体制の整備に関する基本 的な考え方についても、適切に検討が加えられている。	
1-3 (一般)	大石和徳	国立感染症研究 所 感染症情報 センター	センター長	ワクチンにより予防可能な疾患に 対する予防接種の科学的根拠の 確立及び対策の向上に関する研 究(24170201)			
1-4 (一般)	荒川創一	神戸大学 医学 研究科	特命教授	性感染症に関する特定感染症予 防指針に基づく対策の推進に関す る研究			
1-5 (一般)	寺嶋淳	国立感染症研究 所 細菌第一部	室長	病原体解析手法の高度化による 効率的な食品由来感染症探知シ ステムの構築に関する研究			
1-6 (一般)	吉川泰弘	北里大学 獣医 学部	副学長・教授	動物由来感染症に対するリスク管 理手法に関する研究	2012/6/18	・動物由来感染症についてのリスク評価は、これまで試みがなされてきたと ころであるが、本研究班においては、①重要性の高い感染症を対象に絞ってい る点で、目標がさだまっている。②手法についても、体系的なものを開発する というものであり、研究代表者のこれまでの研究活動を助案すると、十分な 成果が上げられると考える。特に吉川先生は、食品安全委員会の委員として もご活躍されていたため、リスクコミュニケーションの重要性をよく認識されて おり、一般市民の方々にわかりやすく説明できるような手法が開発されること と思料される。 ・研究対象とする病原体の感染を回避する方策、感染した場合の対策と再発 防止策、をガイドラインにまとめるとする研究班の目的は明確である。 エキノコックスは北海道全体に拡大しており、キタキツネとネズミ類に感染し ている寄生虫の駆除が急がれる。エキノコックスに関する正確な知見の集積 とそれを根拠にする啓蒙活動、駆虫剤の散布戦略など、実効性がある対策 の提案を期待したい。 カブノサイトファーガは、ペット動物から基礎疾患のある高齢飼育者への感染 が危惧される。診断法の開発、病原性の解析は、発症リスクの評価や対策 の基盤情報となる。	・研究班会議を、班員間の自由な討論と情報交換の場とする努力は評価でき る。年度終了後に研究活動の進捗状況を精査し、このまま継続すべきかどう かを確認したい。

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
1-7 (一般)	澤邊京子(H24~ 小林睦生より変更)	国立感染症研究所 昆虫医科学部	部長	感染症を媒介する節足動物の分布・生息域の変化、感染リスクの把握に関する研究	2012/6/8	・媒介蚊による感染症の研究について、我が国で行われている貴重な研究班である。研究内容は、①アルボウイルスによる未知病原体等に関する研究、②媒介昆虫類、マダニ類の生態、生理学、遺伝学的調査研究であり、最終的には、チクングニア熱予防「検査マニュアル」の行進、ウイルスの遺伝子変異の検出、媒介蚊防除対策の指針作成、被災地における衛生害虫の防除対策など、厚生行政に寄与する成果が期待できる。	・研究代表者が、円滑に交代されており、研究班も幅広く構成されている。
1-7 (一般)	澤邊京子(H24~ 小林睦生より変更)	国立感染症研究所 昆虫医科学部	部長	感染症を媒介する節足動物の分布・生息域の変化、感染リスクの把握に関する研究	2013/3/4	・デングウイルス、チクングニアウイルス媒介蚊の分布、密度、移動、殺虫剤耐性などの情報は、わが国への定着リスク評価の基盤となる。継続が必要な重要な活動で、地道な活動は高く評価できる。 飛行場での媒介蚊の侵入監視はとりわけ重要で、日常的な努力には敬意を表したい。 東日本大震災被災地での衛生昆虫の動態調査は、成果を上げている。将来のためにも、なるべく緻密な情報を収集して欲しい。 ウイルスやリケッチアを媒介するダニの調査は、手探りで始めたところである。得られつつある基礎データをもとに、戦略的に活動を継続して欲しい。	・高崎班との緊密な連携を続けて欲しい。 蚊の調査には人手が欠かせない。また、人手があれば、観測点が増え、データの質が上がる。地衛研、保健所等の活用も含め、行政的な支援があると良いのではないか。
1-8 (一般)	安藤秀二	国立感染症研究所 ウイルス第一部	室長	ダニ媒介性細菌感染症の診断・治療体制構築とその基盤となる技術・情報の体系化に関する研究			
1-9 (一般)	向井徹	国立感染症研究所 ハンセン病研究センター 感染制御部	室長	ハンセン病の予防法及び診断・治療法の開発・普及に関する研究			
1-10 (一般)	柴山恵吾	国立感染症研究所 細菌第二部	部長	新たな薬剤耐性菌の耐性機構の解明及び薬剤耐性菌のサーベイランスに関する研究	2012/5/25	・本研究班の前身である荒川班においては、新型メタロ-β-ラクタマーゼSMB-1やペニシリン低感受性B群連鎖球菌などの薬剤耐性菌を発見・確認してきたところであり、引き続き、新しく出現しつつある新型多剤耐性菌の研究をすすめていくことが期待される。研究班の構成も、NDM-1やアシネトバクター等を取り扱う研究者により広く構成されており、適切と考えられる。また、厚生労働行政においても、薬剤対細菌対策は、最重点課題に掲げられていることから、本研究はますます重要になるものと考えられる。	①多種多様な薬剤耐性菌に関する研究班が一つにとどまるということだが、重要な課題であるだけに、今後、研究班組織をどのようにしていくのか、検討が必要だと考える。②JANIS事業(臨床)と本研究(基礎)との連携をどのように図るのか、特に、データマイニングをいかにするか、という点について、注目していきたい。

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
1-11 (一般)	加藤誠也	(財)結核予防会 結核研究所	副所長	結核の革新的な診断・治療及び対策の強化に関する研究	2012/6/1	<p>・結核に対する①治療法、②病原性、細菌学的特徴、③ゲノム解析、④DOTS、⑤再発予防法など、幅広い研究が計画されており、結核対策に着手することが期待できる。3年間の研究で、新抗結核薬を用いた画期的な治療、治療開始後の感染性の評価、結核菌の感染性・病原性の評価・解明、抗結核薬作用機序の解明、小児結核医療、地域連携の評価推進、眼寝貴状態による標準的医療の評価など、それぞれについて、結果が出ることを期待できる。</p> <p>・すべての分担課題が臨床、公衆衛生に直結しており、当研究事業にきわめてふさわしい。この研究班は対策のための「新しい技術の応用」という応用研究に焦点を当てており、同じ結核を対象とする石川班、岡田班、それに一部共通の小林班とはよく調整してオーバーラップのないように計画されているようだ。また初めて宿主遺伝子の研究が分担課題に入ったが、成果に期待したい。</p>	<p>・結核については、他の研究班との連携がなされている反面、役割分担をきちんとすることが重要と考えられる。</p> <p>・すでに意識されているようではあるが、「評価すべき点」で指摘したことで裏腹に、これらの類似テーマの研究班と連携することで、研究実施や結果の還元をより強力なものにすることが考えられるので、そのような点に留意したほうがいいと思われる。</p>
1-12 (一般)	大西真	国立感染症研究所 細菌第一部	部長	重症の腸管出血性大腸菌感染症の病原因子及び診療の標準化に関する研究	2012/5/26		<p>・この感染症は慢性感染症、たとえば結核のように患者と医師が特定の専門病院に集約され治療がおこなわれるといった状況ではない。突発的には発生し、医師は臨機応変に対処することが求められる。いわゆる専門医師は少ないようである。基礎研究者側は起炎菌や毒素の分析にあたる専門家が育っていると思われる。最近の富山県の感染事例を含めて国内国外での症例や主要毒素の毒素機序や感染様式から疾患発症機序について活発な意見の交換が必須と考えられる。今回の発表会では基礎班と臨床班の紹介と、それぞれの発表で終わりましたが、今後は両班の有機的な討議が必要であろう。基礎班と臨床班からの発症機序の提案と治療指針が期待されます。一般の臨床医が重症腸管出血性大腸菌感染症の治療に当たることになった時にその治療指針は大いに役立つと思われる。たとえば富山県の事例においてステロイド製剤の使用において死亡例に差異があったようです。この薬剤の使用は発症機序の明確化が根拠にないと使用が躊躇されます。今後は死亡例があってはならないと思います。</p>
1-13 (一般)	西條政幸	国立感染症研究所 ウイルス第一部	部長	病原体及び毒素の管理システムおよび評価に関する総括的な研究	2012/7/3	<p>・病原体の取り扱いに係るバイオセーフティの研究班であるが、現在、BSL分類がなされていない病原体について、新たな分類をなすこと、また、最終年度までに、BSLのどの分類にあてはまるかのアルゴリズムを作成することとしており、目標が明確である。また、班構成もこの目的に沿ってなされており、主要な研究者が参画している。</p>	<p>・バイオセーフティの研究については、実質的に3クール目にあたるため、本研究班においては、是非、具体的な成果を出していただくことを期待している。</p>
1-14 (一般)	谷口清州	国立感染症研究所 感染症情報センター	客員研究員	自然災害時を含めた感染症サーベイランスの強化・向上に関する研究			
1-15 (若手)	田辺公一	国立感染症研究所 生物活性物質部	主任研究官	侵襲性真菌症例から分離された原因真菌の分子疫学解析と疫学データベース化を用いた院内感染対策の研究			

番号	研究代表者	所属機関名	役職名	研究課題名	班会議日時	PO意見	
						評価すべき点	その他
1-16 (若手)	谷英樹	国立感染症研究所 ウイルス第一部	主任研究官	水疱性口内炎ウイルスを用いたア レナウイルスワクチン開発に関する 基盤研究			
1-17 (若手)	森田英嗣	大阪大学微生物 病研究所 感染症 国際研究セン ターウイルス研究 グループ	特任准教授	エンベロープウイルス粒子形成の 分子基盤の解明と創薬に向けた 研究開発			
1-18 (若手)	上野孝治	関西医科大学 医学部	助教	HTLV-1感染モデルを用いた抗 HTLV-1薬の探索および作用機序 の解析			
1-19 (若手)	水上拓郎	国立感染症研究所 血液・安全性 研究部	室長	抗HTLV-1ヒト免疫グロブリンによる HTLV-1の革新的感染予防モデル の開発とその有効性の検討			
2-1 (一般)	石川信克	(公財)結核予防 会結核研究所	所長	地域における効果的な結核対策 の強化に関する研究	2012/7/5	<ul style="list-style-type: none"> 結核を主課題とした他の研究班(加藤、岡田)とは研究機関や研究者の オーバーラップはあるが、研究課題のデマケはよくできているようだ。 分担課題「病原体サーベイランス体制の確立」にみられる、地衛研ネット ワークなどとの共同体制は、成果の広がりの可能性の点で特に注目に値す る。今後も積極的に地衛研ネットワークへの働きかけを行って協力の実をあ げて頂きたい。 	
2-1 (一般)	石川信克	(公財)結核予防 会結核研究所	所長	地域における効果的な結核対策 の強化に関する研究	2012/11/27	<ul style="list-style-type: none"> 地域結核対策における病原体サーベイランスの確立及び数理的分析を行 い、地域・感染疫学状況の把握と分析を計画的に実施している。また、ハイリ スク者、医療従事者、都市部における患者、潜在性結核感染症の対策につ いて、具体的対策方法の開発を計画的に実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度当初に発生した、検体搬送に係る問題により、研究の若干の変更を 余儀なくされており、残念と考えられる。
2-2 (一般)	岡田全司	(独)国立病院機 構近畿中央胸部 疾患センター 臨 床研究センター	臨床研究セン ター長	海外から輸入される多剤耐性結核 に関する研究	2012/7/12	<ul style="list-style-type: none"> 基礎、臨床、公衆衛生の3拍子がよくそろった研究班であり、多剤耐性菌と 輸入感染症という複合的な課題をうまくカバーできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 2期にわたる課題でもあり、今期はその成果の行政還元として、「日本国内 における外国人結核対策の手引き」のようなもの策定を目指して頂きたい。